



ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作

三木卓 訳

文化出版局 1972年 854円

4月になり、かえるくんが冬眠したままのがまくんを起こしに来ました。「おきなよ、はるがきたんだよ!」。でもがまくんは5月まで寝ると言ってベッドに戻ってしまいます。そこで、かえるくんはカレンダーを破って5月にし、ようやく起きたがまくんと二人で春のようすを見に行く「はるがきた」。一度も手紙をもらったことがなくて嘆いているがまくんのために、かえるくんが手紙を書いて、かたつむりに配達を頼み、二人でしあわせな気持ちで手紙が来るのを待つ「おてがみ」など、5つのお話が入っています。「おてがみ」は教科書に載ったことがあります。どれも、お互いを思いやる友情のお話で、おかしみの中にほのぼのとした味があります。緑と茶を基調とした淡い色彩の絵が、二人の表情やしぐさをユーモラスに描いています。

アーノルド・ローベルは、アメリカの絵本作家で、「どろんここぶた」「とうさんおはなしして」「ふくろうくん」などの作品があります。シリーズにはニューベリー賞を受賞した「ふたりはいっしょ」、「ふたりはいつも」「ふたりはきょうも」があります。